

3月の就活解禁を2カ月後に控えた1月1日時点で、2026年卒学生の準備はどの程度進んでいるだろうか。キャリタス就活・学生モニターの就職意識や就職活動の準備状況などを調べた。また、インターンシップ等参加企業から早期選考の案内を受けた経験や時期などについても尋ねた。

1. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

- 文系・理系とも1位は「給与・待遇が良い」、2位「将来性がある」
- 「仕事を通して成長できる」「柔軟な働き方ができる」は全体の9割が「企業選びに影響」

2. 就職活動に関する情報の入手先

- 「就職情報サイト」が文理とも約9割で最多。「各企業のホームページ（採用サイト）」が続く

3. インターンシップ等（※）の参加状況と参加後のアプローチ

- 参加経験がある学生は92.7%、参加社数は平均10.2社
- これから参加したい企業数は平均6.7社。前年調査（7.5社）を下回る

4. 1月1日時点の本選考受験状況と内定状況（※）

- 「本選考を受けた」53.7%。前年同期（54.7%）に続き半数超え
- 「内定を得た」27.9%。前年同期（23.6%）を4.3ポイント上回る

5. 志望企業の選考スケジュールの認知状況

- 7割（70.1%）が本命企業の選考スケジュールを認識
- 本命企業からの内定取得予想時期は「3月後半」が最多（16.9%）

6. 本選考前までの対面接点の必要性

- 志望企業の本選考の前に対面での接点が必要と考える学生は8割強に上る（計86.2%）

7. 就職活動解禁までの準備の進め方・方針

- 「早期選考を受けたい」63.9%、「志望業界・志望企業への理解を深めたい」47.6%の順
- 「合同説明会に参加したい」「まだ知らない業界・企業を探したい」が前年調査より増加

8. 企業の就活セクハラ防止策についての考え

- 防止策を企業に義務付ける「法改正検討の動きを知っている」3割（30.3%）
- 評価できる防止策は「夜間の面会禁止」60.2%、「面会時の飲酒禁止」56.5%の順

※「インターンシップ」に限定せず、オープン・カンパニー等も含めて尋ねた

※「内定」には、内々定を含む

調査概要

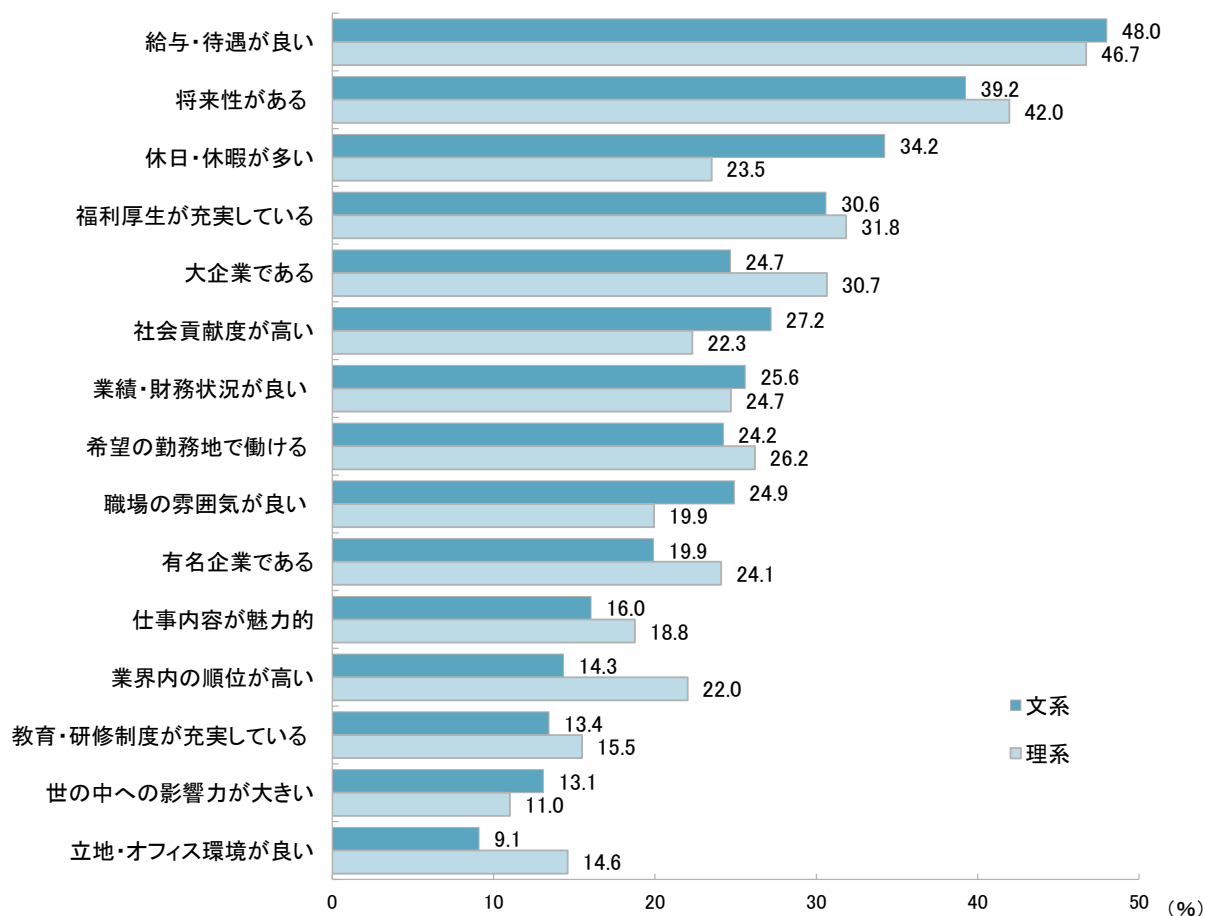
調査対象：2026年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
回答者数：1,011人（文系男子204人、文系女子471人、理系男子208人、理系女子128人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2025年1月1日～8日
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2026
調査実施：株式会社キャリタス/キャリタスリサーチ

1. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先企業を選ぶ際に重視する点を30項目の選択肢の中から5つまで選んでもらい、文系・理系でどのような違いがあるのかを比較した。

上位2項目は文理とも1位「給与・待遇が良い」、2位「将来性がある」の順。文系理系を問わず多くの学生が重視している様子が見て取れる。文系の3位は「休日・休暇が多い」で、理系を大きく上回る(文系34.2%、理系23.5%)。さらに「福利厚生が充実している」が続き、働きやすさに重点に置いて企業選びをしようと考えているようだ。一方理系は、「大企業である」や「業界内の順位が高い」などが文系に比べてポイントが高く、大手志向が目立つ。

<就職先企業を選ぶ際に重視する点>



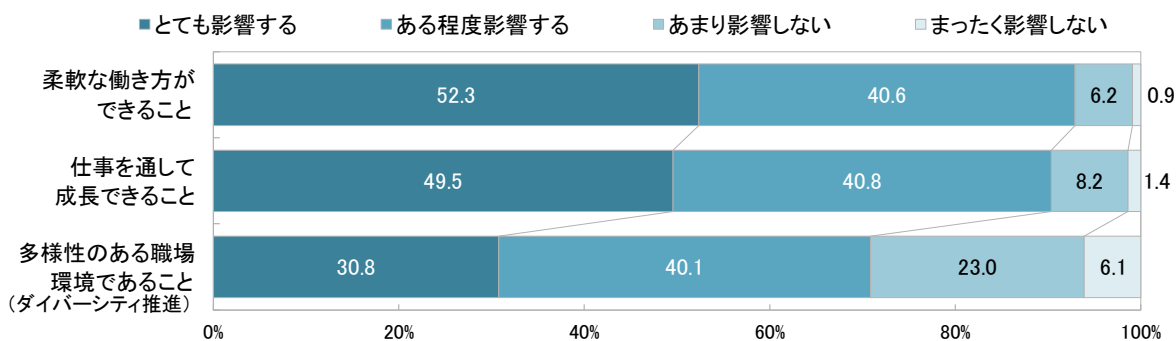
■企業を選ぶ際に重視したい点

- 給与が高ければ仕事のモチベーションが上がると考えるのと、早く奨学金の返済を完了したい。 <理系男子>
- 将来性があると安心して長く働ける良さがあり、長く働こうと努力できるように感じる。 <文系男子>
- より多くの人に貢献できるような仕事がしたいと考えているため、世の中への影響力は最も重視している。 <理系男子>
- 将来のライフプランのことを考えると、福利厚生が充実した企業に勤めたいと思う。 <文系女子>
- ワークライフバランスを重視したいと考えているため、激務で給料が良いよりはしっかりと自分の時間も持てる方がいい。 <文系男子>
- 地元で働きたいので、勤務地を最も重視して就職活動を行っている。 <文系女子>
- 自分が働きたいと考える業界であることが一番であり、その次に業界内の順位を意識している。 <理系男子>

就職先企業選びに、下記の3つの項目がどの程度影響するかを尋ねた。「柔軟な働き方ができること」は、半数以上の学生が「とても影響する」と回答(52.3%)。「ある程度影響する」を合わせて9割超が「影響する」との考えを示した(計92.9%)。「仕事を通して成長できること」も9割が「影響する」と回答(計90.3%)。就職先選びの指標(2ページ)では待遇重視の傾向が目立ったが、自己成長への関心も非常に高く、成長できる環境かどうか大きなポイントとなっていることがわかる。

「多様性のある職場環境であること」は、3項目の中では一番ポイントが低いものの、「影響する」と回答した学生は7割に上った(計70.9%)。

<就職先企業選びへの影響度合い>

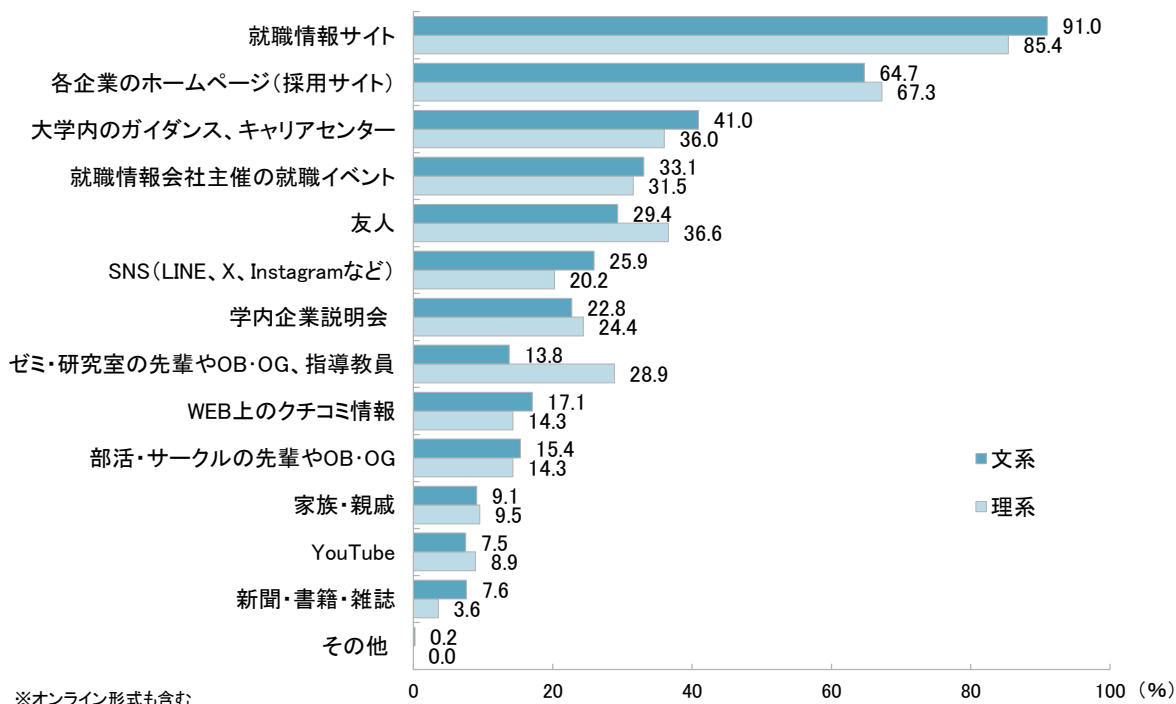


2. 就職活動に関する情報の入手先

現時点で就職活動に関する情報をどこから入手しているのかを尋ねたところ、文理とも最も多いのは「就職情報サイト」。特に文系で高く9割以上が選んだ。以下、「各企業のホームページ(採用サイト)」「大学内のガイダンス、キャリアセンター」「就職情報会社主催の就職イベント」などが上位項目。

文理で比較すると、理系は文系に比べ「友人」「ゼミ・研究室の先輩やOB・OG、指導教員」などのポイントが高く、身近な人間関係からも積極的に情報を入手する傾向が強いことがわかる。

<就職活動に関する情報の入手先>



3. インターンシップ等の参加状況と参加後のアプローチ

インターンシップやオープン・カンパニー等のプログラムへの参加状況を尋ねた。

1月の調査時点で参加経験がある学生はモニター全体の92.7%。プログラムの実施日数別に参加状況を見ると、「1日以内のプログラム」が多く(87.7%)、日数が伸びるごとに参加経験者の割合は減少。

「5日間程度」は約3割(31.0%)、「2週間以上」は7.0%。但し、「2週間以上」は理系においては1割を超える(理系男子14.4%、理系女子13.3%)。

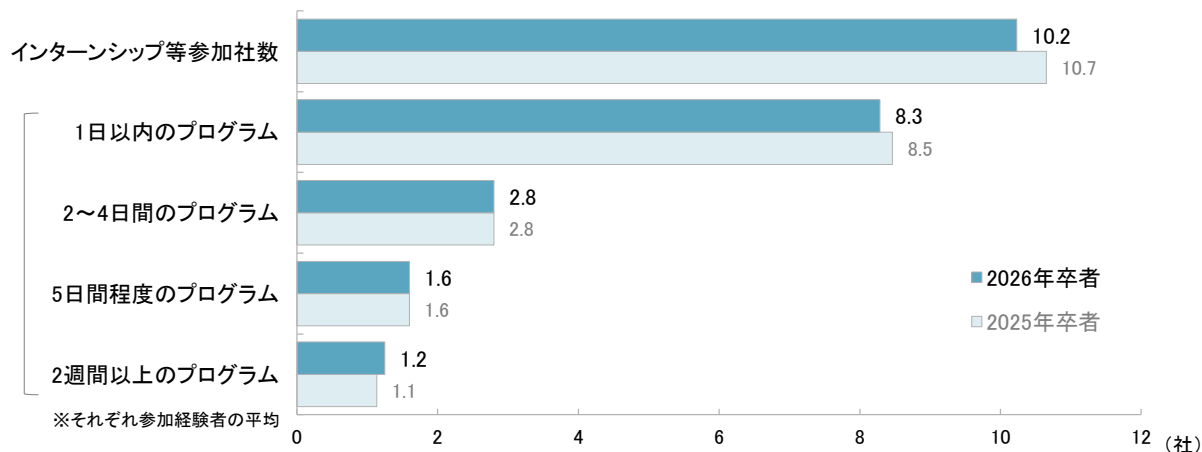
プログラムの日数によらず参加社数を算出すると、一人あたりの平均は10.2社。前年同期(10.7社)をやや下回る。

今後の意向については、「参加したい」と回答したのは全体の68.7%で、参加したいと考えている企業数は平均6.7社。ともに前年同期調査を下回る。すでに多くのプログラムに参加していることや、企業の早期選考が行われていること(後述)などから、インターンシップ等から本選考へと意識が移っている学生もいるのだろう。

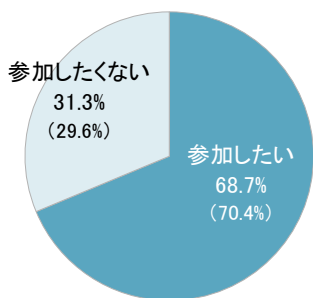
<インターンシップ等経験率>

	(%)					
	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
インターンシップ等に参加した	92.7	94.3	91.1	92.8	94.2	94.5
1日以内のプログラム	87.7	91.0	89.2	87.9	84.1	88.3
2~4日間のプログラム	56.4	60.4	55.4	53.7	63.9	57.0
5日間程度のプログラム	31.0	32.9	28.4	27.6	45.2	28.9
2週間以上のプログラム	7.0	11.5	2.5	5.9	14.4	13.3

<プログラム日数別参加社数>

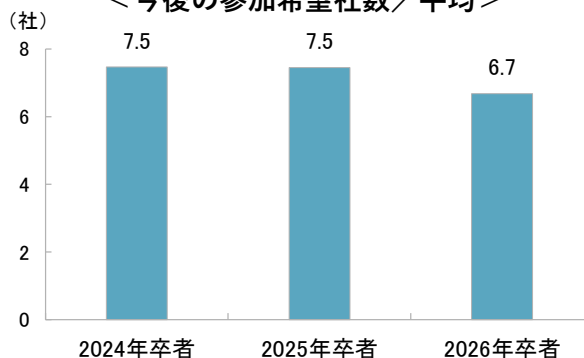


<今後の参加意向>



※()内は前年同期調査の数値

<今後の参加希望社数/平均>

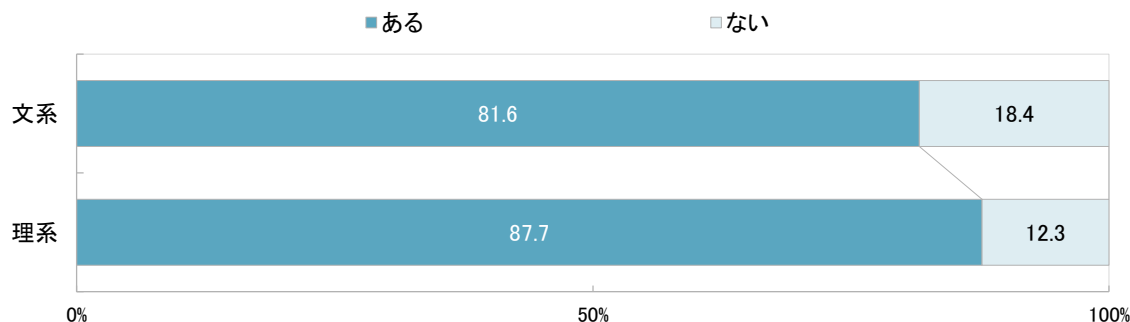


インターンシップ等への参加経験がある学生(全体の92.7%)に、早期選考の案内を受けた経験を尋ねたところ、8割以上が「ある」と回答。特に理系で高く9割近くに上る(87.7%)。

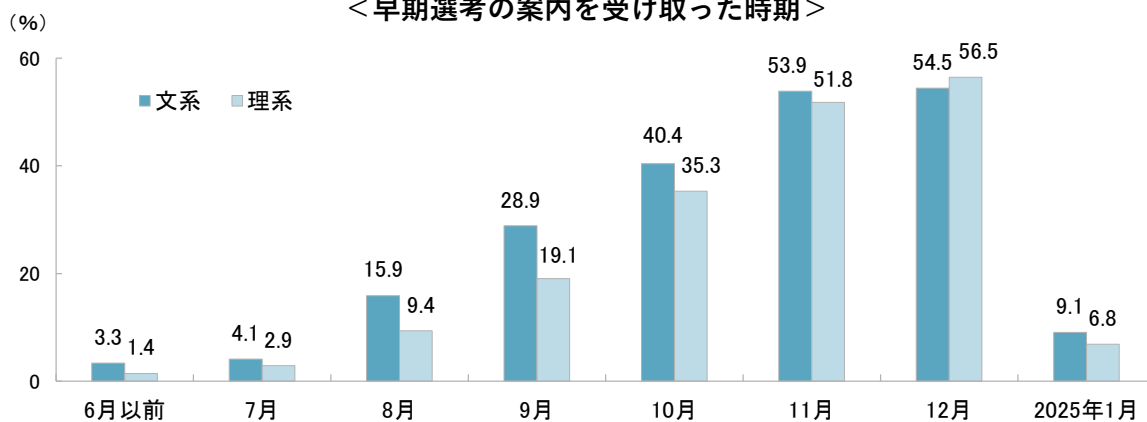
早期選考の案内を受けた時期と、実際に選考を受けた時期(予定も含む)を重ねて尋ねた。案内を受けた時期は、「11月」「12月」が5割台と高いが、「10月」も4割前後に上る。夏季プログラムの参加企業から秋冬に案内をもらうケースが多いことがうかがえる。実際に選考を受けた時期は「12月」が最多だが、今後1月以降の数字が上がっていくだろう。

なお、文理別に見ると、全体的に文系のポイントが高めだが、文系学生の方が多くの企業のプログラムに参加していることが影響していると考えられる。

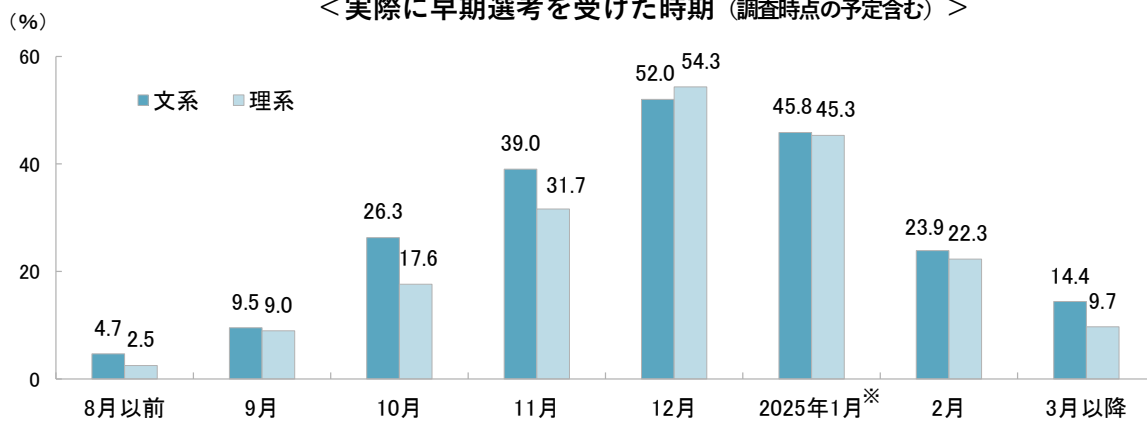
<プログラム参加企業から早期選考の案内を受けた経験>



<早期選考の案内を受け取った時期>



<実際に早期選考を受けた時期 (調査時点の予定含む)>



*1月以降については、その時期に早期選考を受けることが決まっている企業がある場合

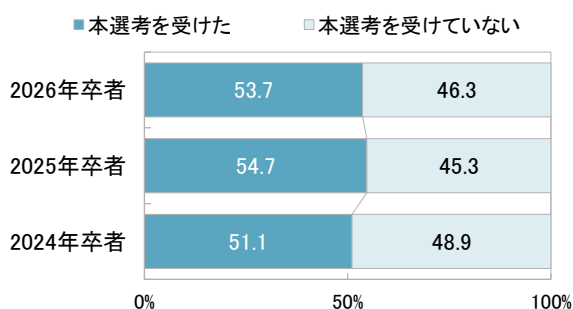
4. 1月1日時点の本選考受験状況と内定状況

本選考(採用選考)の受験状況を尋ねた。筆記試験や面接など「本選考を受けた」という回答が53.7%に上り、前年(54.7%)に引き続き回答者の過半数を占めた。受験社数の平均は3.4社。

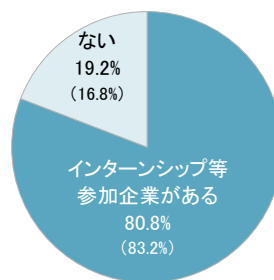
本選考受験企業の中にインターンシップ等参加企業があると答えた学生は8割を超え(80.8%)、インターンシップ等から早期選考へとつながるケースが多いことがこのデータからもうかがえる。

本選考受験経験者の割合は文系より理系で高く、理系学生において先行している様子が見て取れる。

<1月1日現在の本選考の受験有無>



<うち、インターンシップ等参加企業の有無>



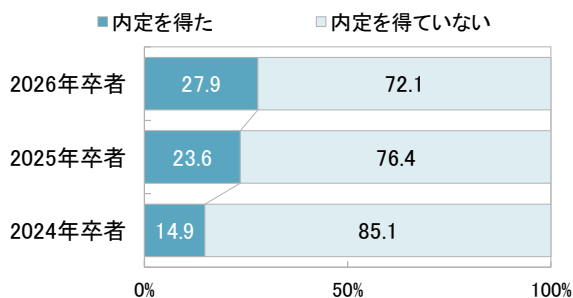
※()内は前年同期調査の数値

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	53.7%	54.7%	50.5%	52.2%	58.7%	60.9%
選考受験社数(平均)	3.4社	4.0社	3.8社	3.5社	3.2社	2.5社
うち、インターンシップ等参加社数(平均)	2.1社	2.2社	2.2社	2.2社	2.1社	1.3社

続いて内定状況を見てみると、「内定を得た」との回答は27.9%。前年同期(23.6%)より4.3ポイント上昇した。とりわけ理系男子において高く、3割を超えている(35.6%)。

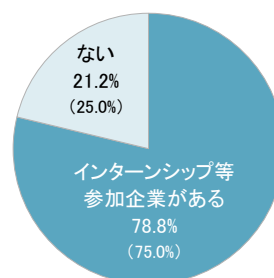
ただ、内定を得ても大半が就職活動を継続しており、調査時点で就活を終了した学生は全体の4.2%にとどまる。

<1月1日現在の内定の有無>



*「内定」には、内々定を含む

<うち、インターンシップ等参加企業の有無>



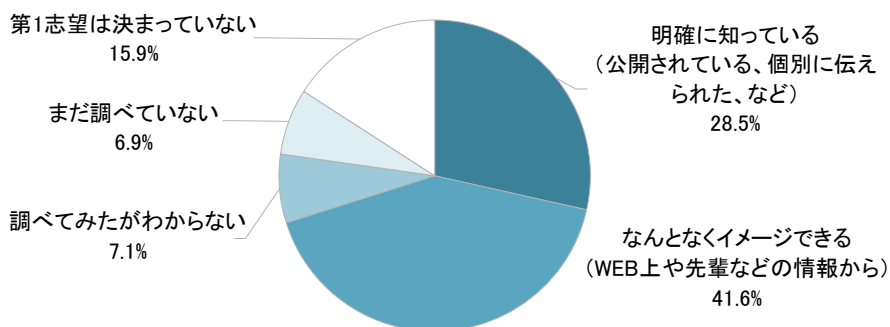
※()内は前年同期調査の数値

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	27.9%	23.6%	25.0%	27.2%	35.6%	27.3%
内定社数(平均)	1.5社	1.4社	1.5社	1.5社	1.7社	1.5社
うち、インターンシップ等参加社数(平均)	1.1社	0.9社	1.0社	1.1社	1.3社	1.1社

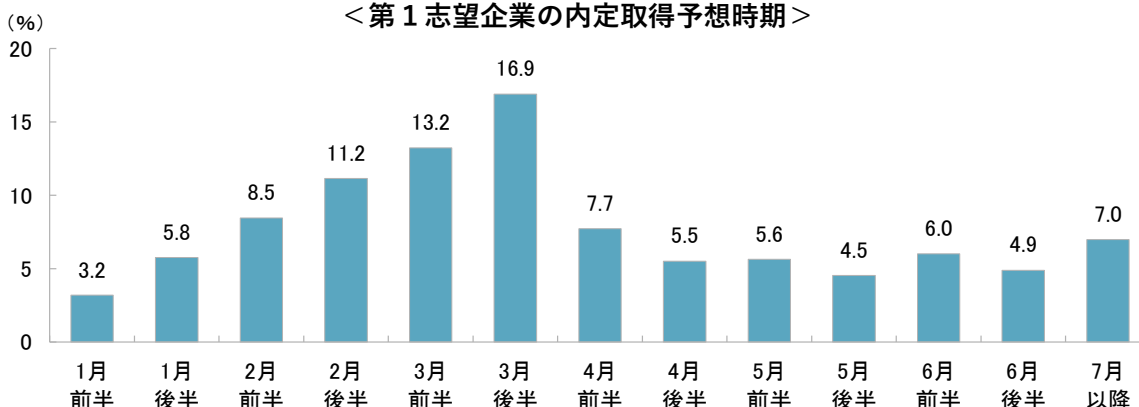
5. 志望企業の選考スケジュールの認知状況

現時点の第1志望企業について、選考スケジュールを知っているか尋ねたところ、「明確に知っている」という学生は3割弱(28.5%)。「なんとなくイメージできる」(41.6%)を合わせると、7割が認識していた(計70.1%)。その企業から内定が出る場合に、いつ頃をイメージしているかを重ねて尋ねると、最も多いのは「3月後半」(16.9%)。3月後半までを合計すると58.8%と6割近くに上る。志望企業の内定を順調に得られれば、早期に就職活動を終える学生が少なくないことが推測される。

<第1志望企業の選考スケジュールの認知状況>

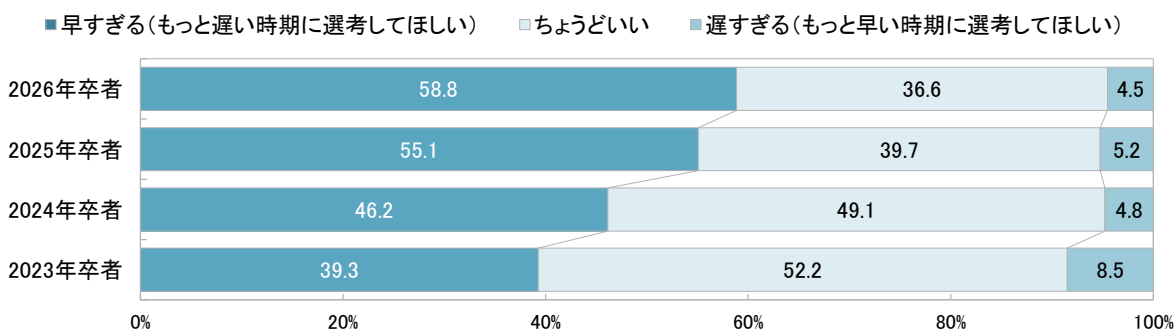


<第1志望企業の内定取得予想時期>



志望企業に限らず、今の企業の動き(選考時期)についての考えを尋ねた。「早すぎる(もっと遅い時期に選考してほしい)」という回答が年々増加し、6割近くに上った(58.8%)。早期化により準備が追いつかないまま選考に臨まざるを得ないという意見のほか、活動が長期に亘ることで、学業や課外活動など本来の学生生活を満足に送れていないという声が多く寄せられた。企業には一層の配慮が求められる(コメントは次ページに掲載)。

<企業の採用活動の動きをどう思うか>



■企業の動きへの意見

【早すぎる】

- 企業によっては年明けすぐに選考が始まり、研究との両立が大変。 <理系男子>
- サークルで3年生が中心に活躍するはずが、就活で忙しくて満足に活動できなかった。 <文系女子>
- 学業が十分に進んでいない中で就活をしなければならないため、学業面(研究など)でアピールすることができない。 <理系女子>
- 企業の選考締切や面接日程が大学の期末考査と被っている。 <文系男子>
- 早く動いている人への優遇はあってもいいが、3月以降に募集する枠はしっかり残してほしい。 <文系男子>
- みんな焦ってやっているの、本当に行きたいところなのかとってしまう。 <理系男子>

【ちょうどよい】

- 早くから行動しているので妥当だと思います。 <文系男子>
- 早期化が進んでいる実感はあるが、早いうちに進めることで安心できる。 <文系女子>
- 大学院1年生のうちに就活が終わらせられれば、残り1年は研究に集中できる。 <理系男子>

【遅すぎる】

- 私の志望業界は3月開始を守っているため、相対的に遅いように感じる。 <文系女子>
- 早期に就活を終了することで、研究や学業に専念したい。 <理系女子>

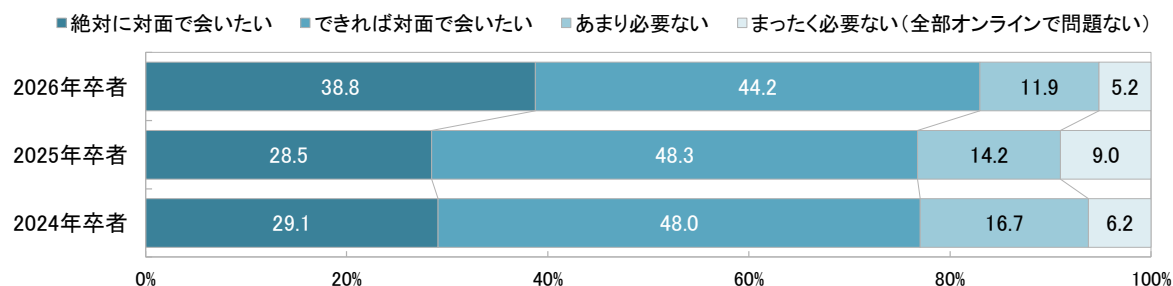
6. 本選考前までの対面接点の必要性

本選考の前に企業と対面で会う機会を必要と感じているかどうかを、2つの目的に分けて尋ねた。

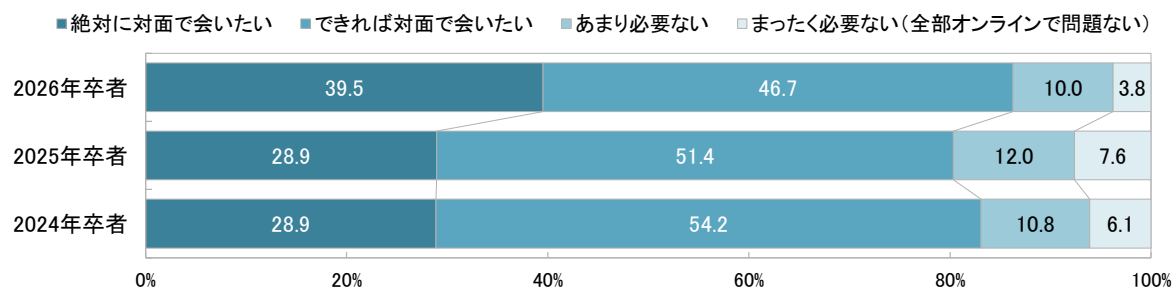
「その企業を志望するかどうかを判断するため」では、「絶対に対面で会いたい」という回答が38.8%。「できれば対面で会いたい」(44.2%)を合わせると8割を超える(計83.0%)。「志望企業をより深く知るため」では、対面での機会を求める割合はさらに高まる(計86.2%)。

いずれの目的においても「絶対に対面で会いたい」が過去2年に比べ約10ポイント増加しているのが目立つ。今期、インターンシップや合同説明会などへの対面での参加が増えていることもあり、それらの経験から、より深く企業を知るためには対面が適切という認識をもつ学生が増加したと推測される。

<その企業を志望するかどうかを判断するため>



<志望企業をより深く知るため>



7. 就職活動解禁までの準備の進め方・方針

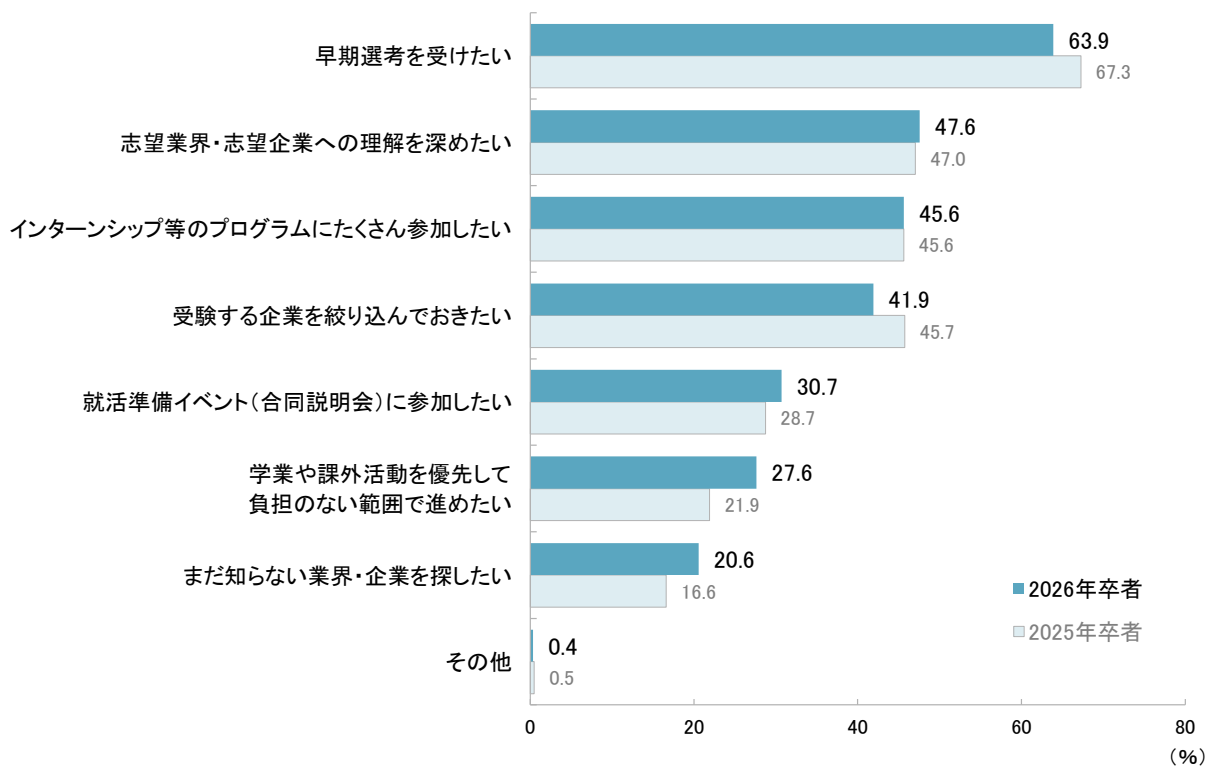
3月の就職活動解禁までに、学生はどのように準備を進めようと考えているのだろうか。

最も多いのは「早期選考を受けたい」で、6割強の学生が選択した(63.9%)。2番目は「志望業界・志望企業への理解を深めたい」(47.6%)で、選考が本格化する前に意中の企業や業界の研究を進めておこうとの方針が読み取れる。

「インターンシップ等にたくさん参加したい」(45.6%)が僅差で続き、また「就活準備イベント(合同説明会)に参加したい」や「まだ知らない業界・企業を探したい」がそれぞれ前年よりポイントが増えるなど、解禁前にもっと多くの企業に出会いたいと考える動きも見られる。

なお、「学業や課外活動を優先して負担のない範囲で進めたい」が前年調査より大幅に増えたのも特徴的(21.9%→27.6%)。

<3月の就職活動解禁までの準備の進め方>



■就活解禁までの進め方・方針、ここまでの感想など

- 今のところ、希望企業から早期選考の案内をもらえているため、それに向けて頑張りたい。 <文系女子>
- なるべく早くに内定をもらって安心したい。 <文系男子>
- 早く目指す企業を決め本格的に対策を開始したいのですが、どうしても業界が絞れず、目指す先がひとつに絞れず、なかなか身の入った就活ができなくて困っています。 <文系女子>
- 秋冬のインターンシップの選考で、なかなか進むことができず、本選考への不安が高まっています。 <文系女子>
- 早く就職活動を終わらせて、研究活動に力を入れたいと思っている。 <理系男子>
- 実際に就職してみないとわからないことが多いが、取り繕っても後々しんどいのは自分であるため、ある程度ありのままの自分を受け入れてもらえる企業を探したい。 <理系女子>
- 少し不安はありますが、自分の将来働く企業を決める重要な期間なので、悔いのないように一生懸命努力したいと思います。 <文系男子>

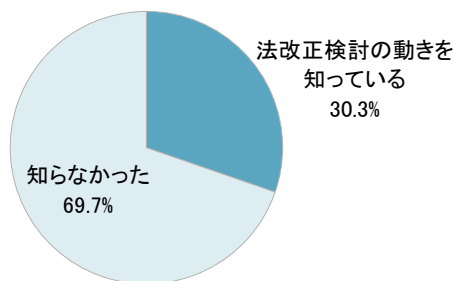
8. 企業の就活セクハラ防止策についての考え

就職活動中の学生に対するセクハラの防止策を企業に義務付ける法改正の準備が進んでいる。その認知度を尋ねたところ、「法改正検討の動きを知っている」と回答した学生は約3割(30.3%)に上った。

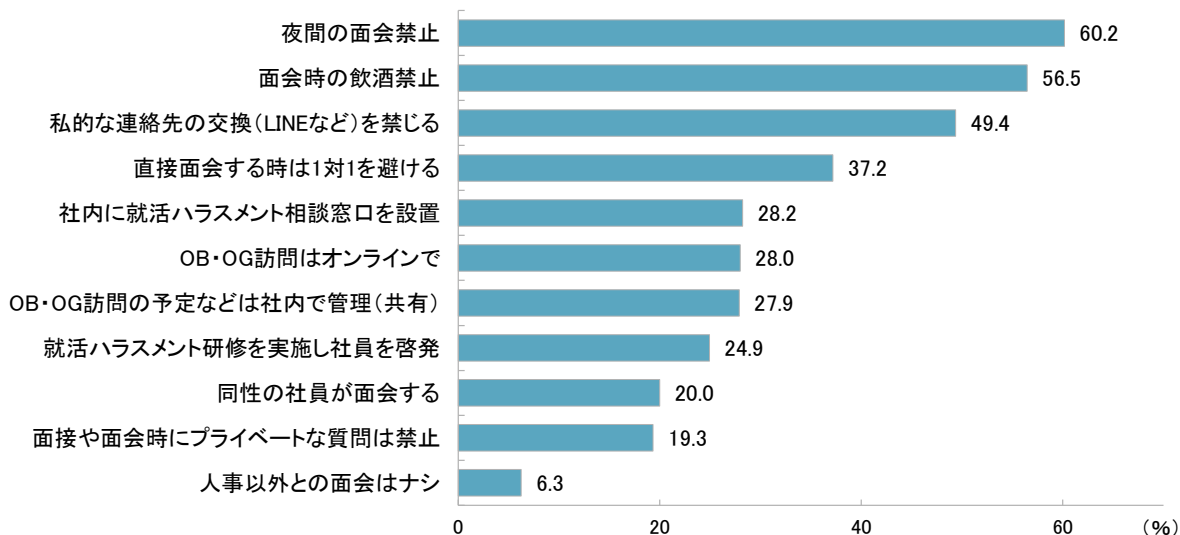
企業の防止策としてすでに行われている例を中心に挙げ出し、学生から見て評価できると思うものを選んでもらった。最も多いのは「夜間の面会禁止」(60.2%)で、「面会時の飲酒禁止」(56.5%)が続く。OB・OG訪問に一定のルールを求める学生が多いことがうかがえる。また、「私的な連絡先の交換を禁じる」を約半数が選ぶなど(49.4%)、プライベートとの境界が曖昧にならないよう企業側が率先して制限してほしいと考える学生が少なくないことがわかる。

一方で、「OB・OG訪問はオンラインで」を選んだ学生2割台にとどまり(28.0%)、社員との接触を一律に制限するのではなく、安心して面会できるような対策を望んでいることが読み取れる。

<就活セクハラ防止義務化検討の認知度>



<企業の就活セクハラ防止策として評価できるもの>



- 夜間の面会や飲酒、私的な連絡先の交換、プライベートな質問等は不必要な事柄だと思う。 <文系女子>
- あくまで公的なものという区別をつけることが大事だと考えている。 <文系男子>
- プライベートでの交流や連絡先交換はセクハラにつながりやすいため禁止にした方がよい。社内での管理・共有は抑止力になり良いと思う。 <理系女子>
- ハラスメント研修があることで、上の世代が持っている考えがハラスメントにあたると気づかせることができるのは、有効であると考え。 <文系女子>
- 社内に相談窓口を作れば安易にセクハラをできないと思う。 <理系男子>
- 飲みや食事の席でこそ話しやすい部分もあるから、社会人側の倫理観を高めてもらうのが就活生側としては立ち回りやすい。 <文系男子>